



木造小学校の conversion — 埼玉県飯能市立南川小学校を事例として —

K01005 井口琢磨

1 はじめに

1-1 目的

学校建築などの多くの使われなくなった建築物は、今日、記念館や資料館といった、どの建物も同じような使用方法ばかりである。現代の小学校には無い、せつかくの木造という温かみのある雰囲気や昔からの歴史がまったく生かされていないと思う。

埼玉県の飯能市立南川小学校の旧校舎は、現在でもきれいに残っており、小学校を取り巻く環境、雰囲気などがとてもよい。南川小学校は平成5年に廃校になっており、現在は地域の集会場として、時々使用されるのみである。今までのような記念館などの使用方法の活用では、なんとも勿体ないと感じた。

本設計では、南川小学校の既存図面を実測し、敷地と旧校舎を含めたリノベーションの提案を行なう。

1-2 飯能市立南川小学校の校舎と敷地

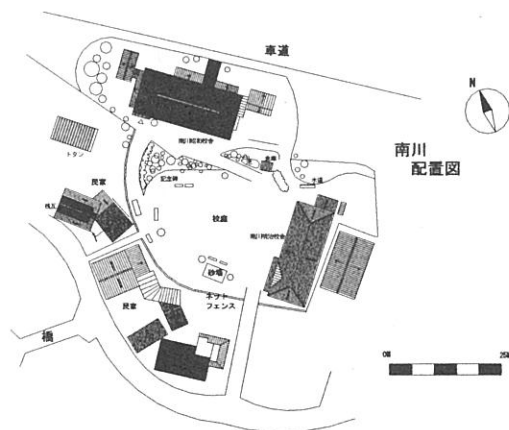


図1 南川小学校配置図

校庭の東側に明治校舎が建っており、北側には昭和校舎が建っている。北側の昭和校舎は明治校舎とは異なった場所に建っていて、校庭の北側の丘のような少し高い位置に建っている。学校周辺は南方位に民家、北方位は山沿いに車道が通っている。

指導教員 伊藤 洋子 教授

2 既存建物の調査結果

2-1 南川小学校明治校舎（平屋建）

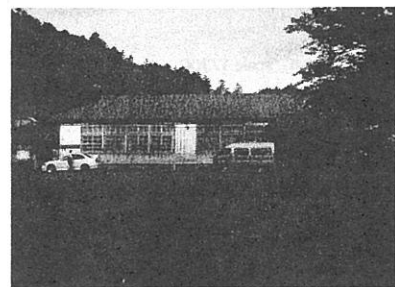


写真1

建築年代：明治37年

特徴：玄関に車寄、墓股、蝦虹梁、漆喰彫刻

構法：入母屋屋根トタン葺、板張りの床、下見板張りの外壁、ガラス格子窓、竿縁天井

基礎：東石、コンクリート布基礎

小屋組：和小屋組

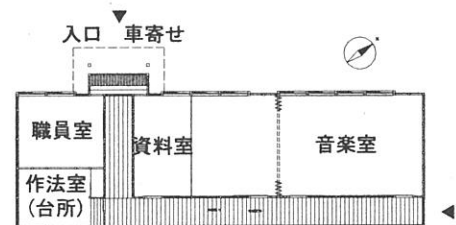


図2 南川小学校明治校舎 平面図

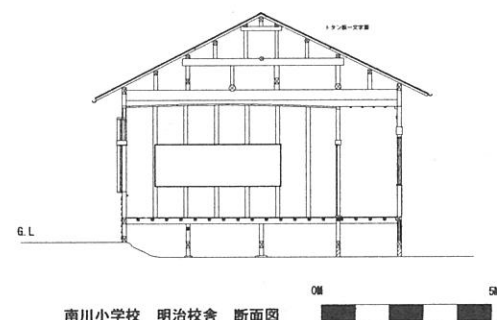


図3 南川小学校明治校舎 断面図

南川小学校は明治7年創立の古い学校である。当初は教室も無く、寺を仮校舎として開校、本校舎が建つのは30年後の明治37年で、74坪の小校舎である。玄関は寺院の向拝のスタイルである。

この南川小学校のようなタイプの学校は、明治期には全国的に見られた。また、郡役所や村役場の玄関庇でも多く見受けられたものである。この校舎の設計・施工は、地元の大工浅見米三郎がしたと伝えられており、玄関庇の彫り物は、秩父の影森小学校のものを見て作ったと地元ではいう。浅見は明治37年の新校舎工事以外に、42年の増築工事、その他近くの学校建築工事も請け負ったという。

2-2 南川小学校昭和校舎（2階建）

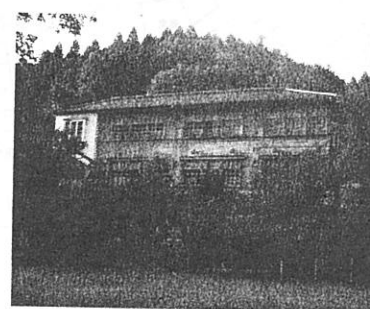


写真2

建築年代：昭和13年

特徴：玄関のみ漆喰造り、教室の壁に換気口あり、2階に山側非常口への渡り廊下

構法：寄棟造桧瓦葺、板張りの床、ドイツ下見板張りの外壁、ガラス格子窓、1階パネル天井（改修）、その他板張天井

基礎：コンクリート布基礎、布石

小屋組：トラス構造

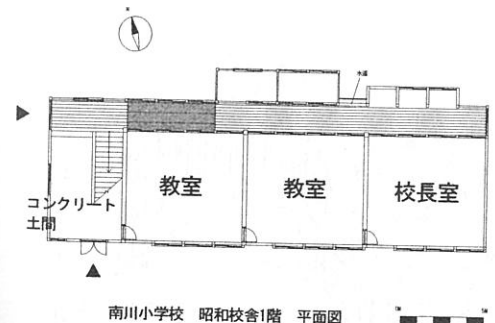


図4 南川小学校昭和校舎 平面1階

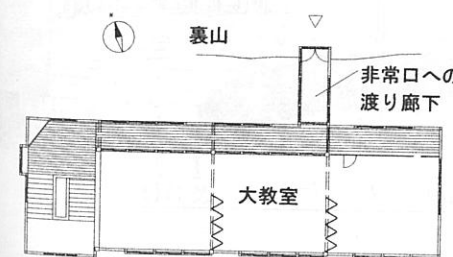


図5 南川小学校昭和校舎 平面2階

昭和13年の校舎は、飯能の「みなと屋」の施工になるものである。外観は、昭和戦前の学校建築の標準的デザインと見て差し支えないが、なぜ玄関廻りを特に入念にモルタルで塗り仕上げたのか、その理由がつかめない。しかし、昭和12、3年の建築界のデザインの風潮は、ナショナルリズムの影響もあって、「東洋的趣味」でデザインすることがあったので、その影響とも考えられる。

南川小学校の2棟の校舎は、34、5年経た時代感情と感覚を建築の面から対比的にみることができるユニークな存在である。

3 歴史的小学校は現在何に活用されているか

廃校リニューアル50選という調査の128例の用途について調べてみた。

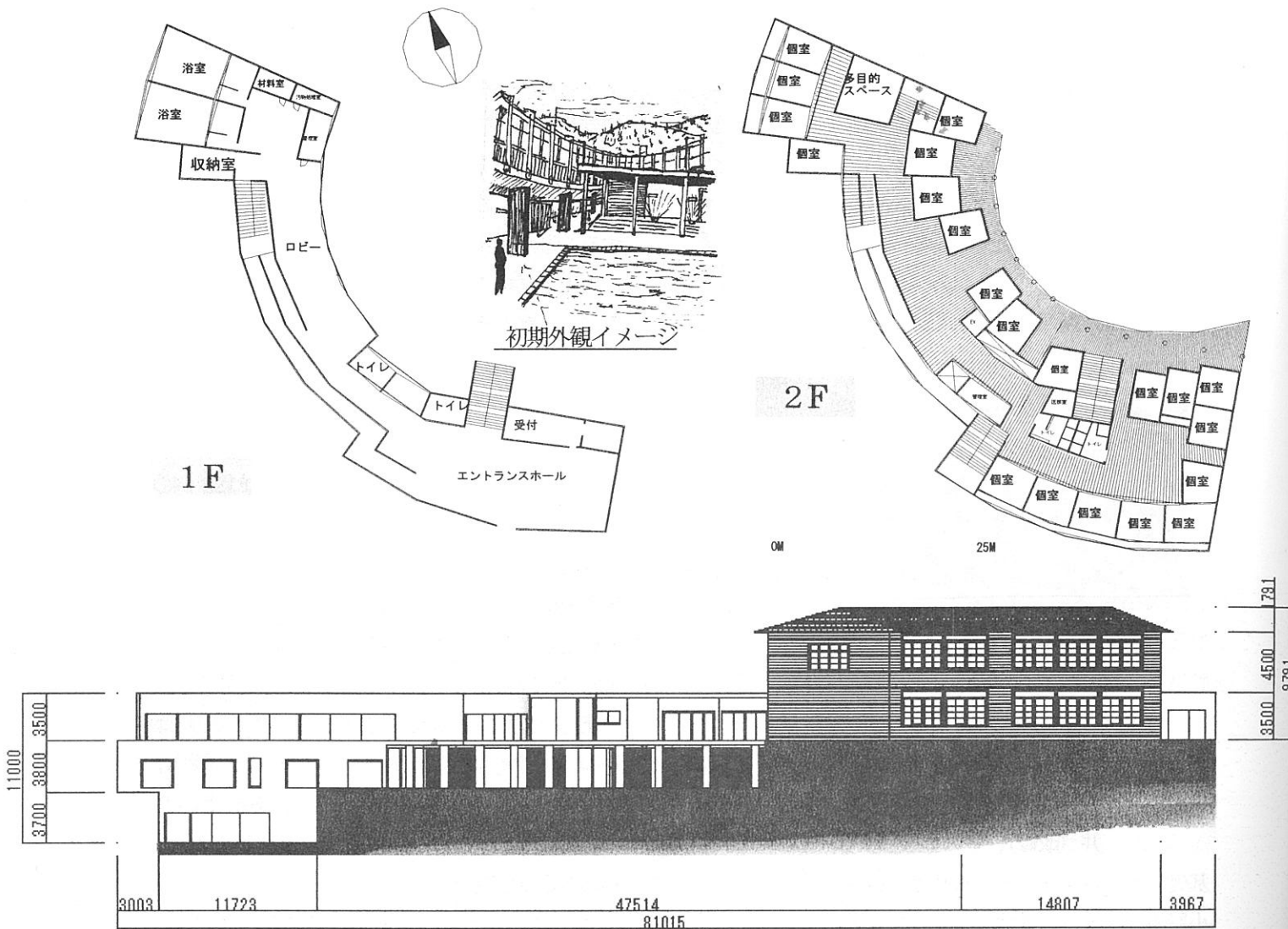
・社会教育施設（資料館、記念館等）	21%
・体験交流施設	17%
・宿泊施設	8%
・老人福祉施設	4%
・社会教育施設+体験交流施設	4%
・体験交流施設+宿泊施設	4%
・社会体育施設	3%
・老人デイサービスセンター	3%
・障害者福祉施設	2%
・他の学校	2%
・研修施設	2%
・オフィス	2%
・社会教育施設+社会体育施設	2%
・社会教育施設+文化施設	2%
・社会教育施設+老人デイサービスセンター	2%
・その他	22%
合計	100%

4 提案

既存の小学校は、明治期および昭和初期のもので、現在の老人達との繋がりがあがる建築のうち昭和校舎のみを使用することとする。

そこで、老人ホームとしての施設をコンバージョンする。

そこでの生活の中で、人と人との対話、自然との対話などという感情、新しい生きがいという第2の人生を歩んでもらいたい。



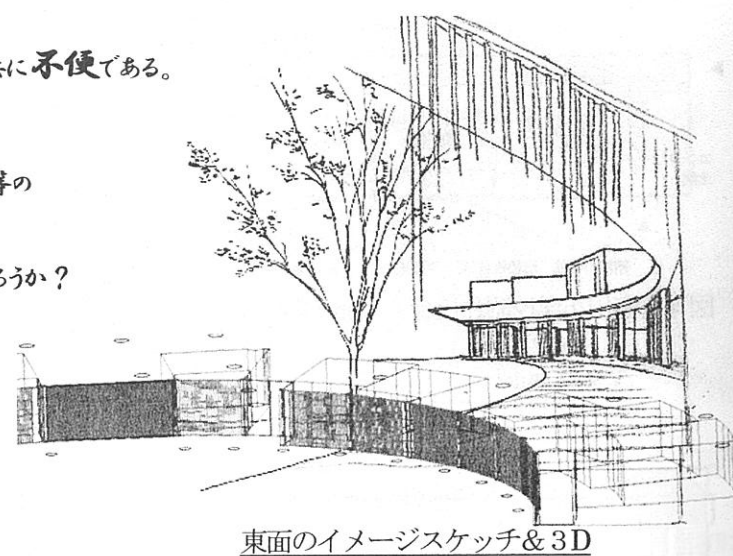
3方向を高い山々で囲まれ、交通の便、日頃の買い物、共に不便である。

だからといってスーパー、デパート、ショッピングモール等の

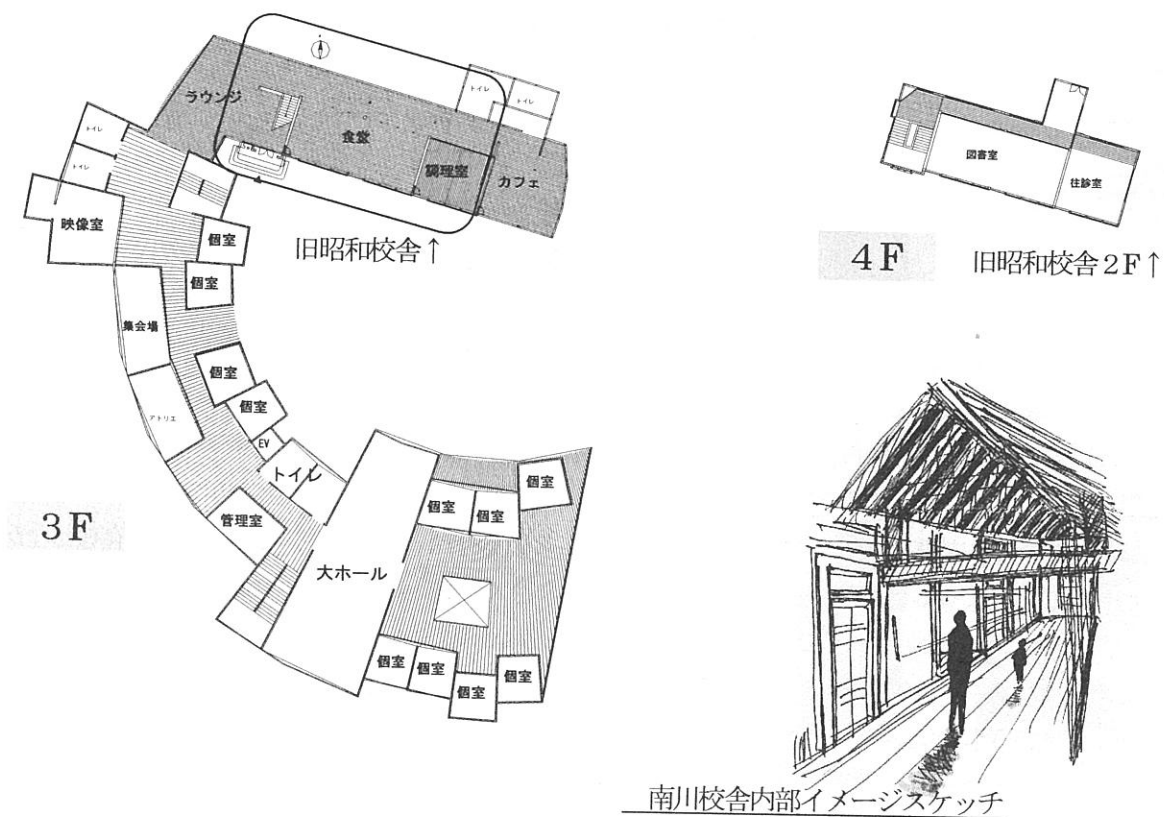
施設を造ればよいのだろうか？

長い間変わらぬ環境、地域の住人達は不便という

ものを心地よくさえ思っている。



東面のイメージスケッチ&3D



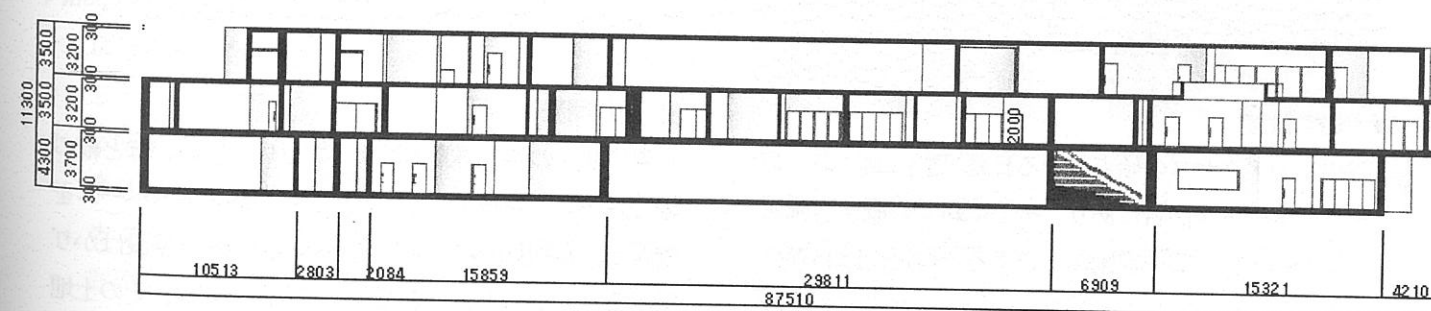
多くの土地が閑雑されているなかで、この土地はそのまま活かせられないだろうか？

そして、環境を変えずにこの土地に見合うものが創れないだろうか？

昭和の木造建築という木造の温もりをそのまま生かし、

昔の記憶の断片を探り、古きよき日々を思い出しながら

ここでの生活を第2の人生とし、これから生きてもらいたい。



断面図